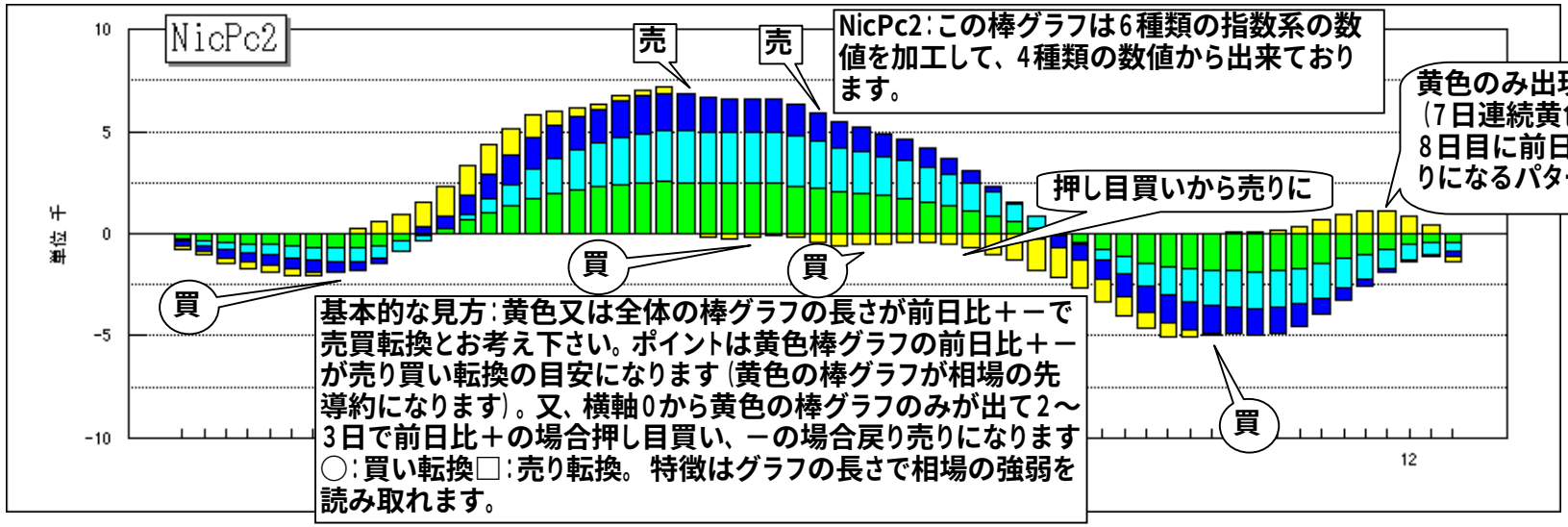
売買転換暗示は下記4種類のグラフを用いて、指値値段・トレンド・相場の強弱・抵抗線・支持線を出しており　12月3日
それぞれの見方・特徴・弱点を以下に説明致します。

九重：その日の終値値段のみで出来ております。横線を基準線と呼び、終値の3日平均を翌日に入力し、縦線（当日の終値）を入れております。

基本的な見方：上昇継続は基準線が前日より上昇している時、買転換は基準線が前日より高く、当日の終値が基準線より高い（前日比プラスが望ましい）場合。売りはその逆です。○：買い転換、□：売り転換　特徴は大相場に強く持ち合いに弱い

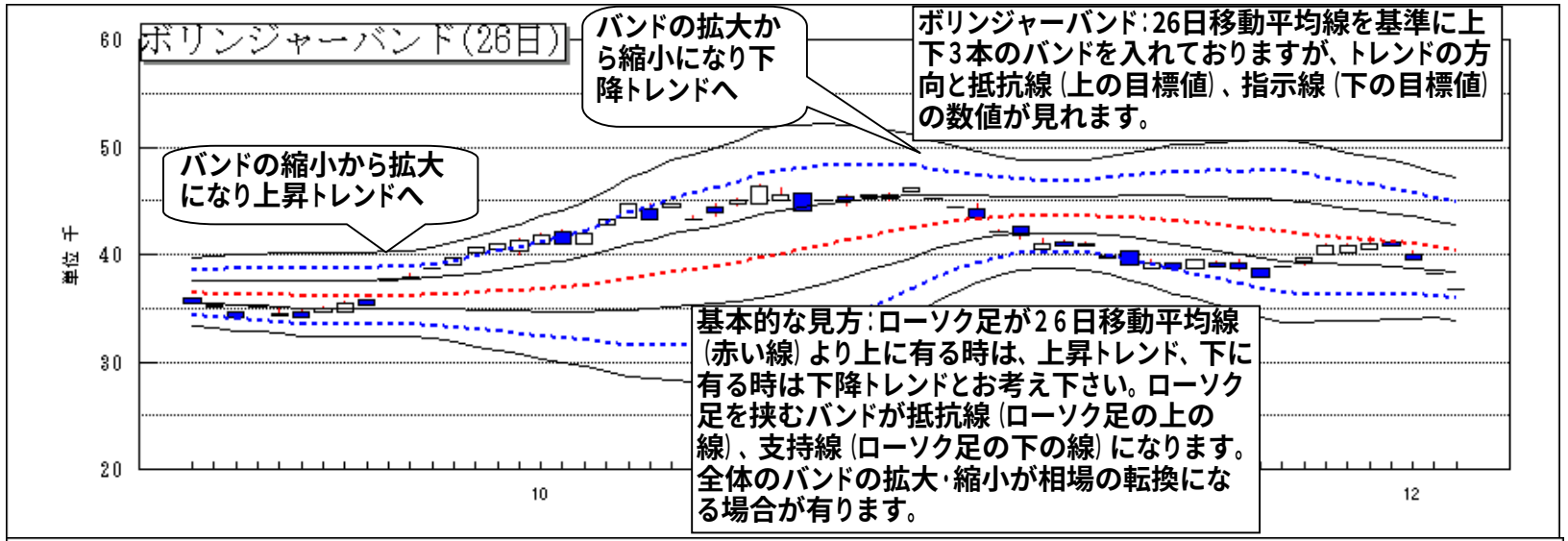


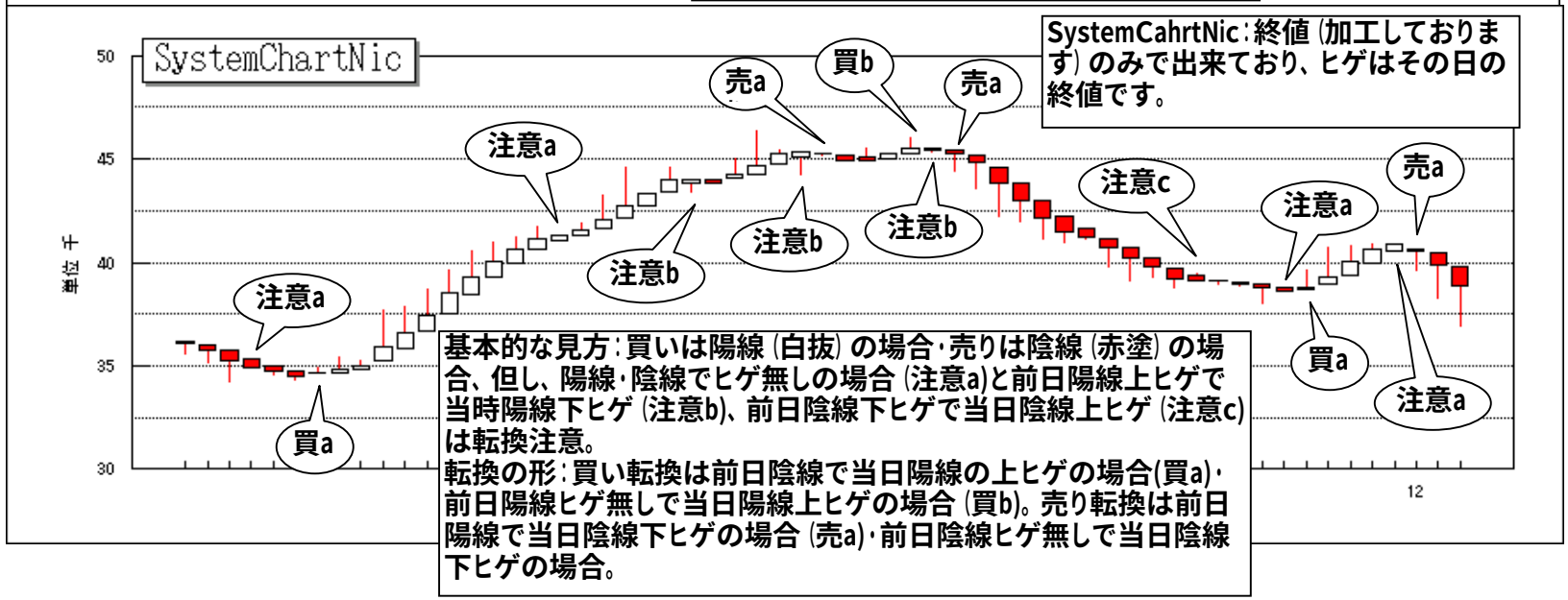
NicPc2：この棒グラフは6種類の指数系の数値を加工して、4種類の数値から出来ております。

押し目買いから売りに

黄色のみ出現し戻り売（7日連続黄色のみで8日目に前日比－に）りになるパターン

基本的な見方：黄色又は全体の棒グラフの長さが前日比＋－で売買転換とお考え下さい。ポイントは黄色棒グラフの前日比＋－が売り買い転換の目安になります（黄色の棒グラフが相場の先導約になります）。又、横軸0から黄色の棒グラフのみが出て2～3日で前日比＋の場合押し目買い、－の場合戻り売りになります○：買い転換□：売り転換。特徴はグラフの長さで相場の強弱を読み取れます。


ボリンジャーバンド(26日)
バンドの拡大から縮小になり下降トレンドへ
バンドの縮小から拡大になり上昇トレンドへ
ボリンジャーバンド：26日移動平均線を基準に上下3本のバンドを入れておりますが、トレンドの方向と抵抗線（上の目標値）、指示線（下の目標値）の数値が見れます。
基本的な見方：ローソク足が26日移動平均線（赤い線）より上に有る時は、上昇トレンド、下に有る時は下降トレンドとお考え下さい。ローソク足を挟むバンドが抵抗線（ローソク足の上の線）、支持線（ローソク足の下の線）になります。全体のバンドの拡大・縮小が相場の転換になる場合が有ります。
単位 千
60
50
40
30
20
10
12


SystemChartNic
SystemCahrtNic：終値（加工しております）のみで出来ており、ヒゲはその日の終値です。
売a
買b
売a
注意a
注意b
注意b
注意b
注意c
注意a
売a
注意a
買a
買a
注意a
基本的な見方：買いは陽線（白抜）の場合・売りは陰線（赤塗）の場合、但し、陽線・陰線でヒゲ無しの場合（注意a)と前日陽線上ヒゲで当時陽線下ヒゲ（注意b)、前日陰線下ヒゲで当日陰線上ヒゲ（注意c)は転換注意。
転換の形：買い転換は前日陰線で当日陽線の上ヒゲの場合(買a)・前日陽線ヒゲ無しで当日陽線上ヒゲの場合（買b)。売り転換は前日陽線で当日陰線下ヒゲの場合（売a)・前日陰線ヒゲ無しで当日陰線下ヒゲの場合。
単位 千
50
45
40
35
30
12